

高梁川流域キッズ

たかはしがわりゆういき

高梁川流域ゆかりの

いじん けんじん とくしゅう

偉人・賢人特集



かつやく とし
活躍した年:

1822~1881年



かつやく ぶんや
活躍した分野:

かんがくしゃ きょういくしゃ
漢学者、教育者



ゆかりのある場所:

- ふしうれきしみんぞくしりょうかん
・芳井歴史民俗資料館
- きゅうせいたかはしちゅうがっこう
・旧制高梁中学校
- おうけいじゅく
・桜溪塾



さか たに
阪谷

ろう ろ
朗廬

新高 高 総 早 倉 矢
見 梁 社 島 敷 掛
市 市 市 町 市 町

井
原
市

浅 里 笠
口 庄 岡
市 町 市



さかたに ろう ろ ふんせい ねん いま いばら し び せい ちやう う

阪谷朗廬は、文政5(1822)年、今の井原市美星町に生まれました。

ちち とくがわ ばく ふ やくにん おお さか す さい とし はは ちち

父が徳川幕府の役人になり大阪に住んでいたため、6歳の時、母につれられ父のもとに

い おく の しょうざん べんきやう おお しおへい はち ろう じゅく はい べんきやう

行き、奥野小山について勉強し、のちに、大塩平八郎の塾に入って勉強しました。さらに11

さい とし え ど い さか や せい けい こ が とう あん まな
歳の時、江戸に行き、昌谷精溪と古賀侗庵にも学びました。

さい とし びやうしやう ははおや せ わ ききやう だい
26歳の時、病床にあった母親の世話をするため帰郷しました。このころ、あちこちの大
みやう まね はは しんばい こたわ
名に招かれましたが、母のことを心配してすべて断りました。

か えい ねん いま いばら し よし い ちやう やな せ おうけいじゅく ひとびと がくもん
そして、嘉永4(1851)年に、今の井原市芳井町築瀬に桜溪塾をつくり、人々に学問
を教えました。

か えい ねん りやうしゅ ひとつばし け だいかん とも やま かつ じ まね がっこう ひら
嘉永6(1853)年に、領主である一橋家の代官友山勝次に招かれて、学校を開きました。
こうじやうかん のち こうじやうかんこうとう がっこう ろう ろ こうじやうかん ねんかん おお ひとびと がくもん
これが興讓館(後の興讓館高等学校)です。朗廬は興讓館で15年間、多くの人々に学問を
おし とう ぼく きやうしゅう おしえ う く おお にん
教えました。はるばる東北や九州からも教えを受けに来るほどで、多いときには100人を
こ
超えたそうです。

けい おう ねん しょうくんよしのふ きやうと がくもんじょ こう ぎ ろう ろ
慶応2(1866)年には、将軍慶喜にまねかれて、京都の学問所で講義をしました。朗廬は、
がくもん たん ちしき み ひと い みち まな と
「学問は単に知識を身につけるだけでなく、人の生きる道を学ぶことである」と説きました。
おしえ よ ひ つ きやうど きんたい に ほん はってん こうけん ゆうのう
この教えはのちの世に引き継がれていき、郷土はもとより近代日本の発展に貢献した有能な
じんざい おお はいしゅつ
人材を多く輩出しました。